

平成20年度木質資源利用ニュービジネス創出モデル実証事業の採択課題

番号	申請者	事業名	事業内容
1	滝上林業協同組合 (北海道)	渚滑川流域木質バイオマス資源利 活用実証事業	森林組合、農業協同組合、町、チップ供給事業者との共同事業により、私有林の間伐推進を図り、林地残材を効率的に集荷して、農業用資材や燃料チップとして活用する。このため、高性能林業機械を活用した集材の効率化及び用途に応じたチップの破碎、乾燥、保管方法の検証を行う。
2	株式会社 イワクラ (北海道)	パーティクルボード及び木質ペレット原料としての木質資源利用実証事業	間伐未利用材を収集し、パーティクルボード及び木質ペレット原料として利用する。間伐と集材を一体的に行うことにより集材費の低減を目指すと共に、現地における効率的な破碎や積み込み方法の実証を行う。
3	宮城県森林組合連合会 (宮城県)	林地残材の燃料・原料利用モデル実践事業	間伐未利用材の効率的な搬出方法を確立して、パーティクルボード、MDF原料及び燃料用に利用する。路網整備と機械化を推進し、全木・全幹集材を行い、土場で分別する方法を実証し、トラックへの積込、運搬の効率化にも取り組む。また、チップの用途別適応性を検討する。
4	遠野興産株式会社 (福島県)	間伐未利用材のチップ・ペレット化による多目的利活用事業	間伐未利用材を収集し、製紙用チップ、ペレット原料、燃料チップ、家畜敷料など多様な用途に分別して利用する。高密度路網の開設、高性能林業機械導入による全木集材を基本に収集コストの低減を目指す。かさ比重の小さい枝葉については現地破碎方式を導入すると共に、端材等の運搬方法の効率化を図る。
5	王子木材緑化株式会社 (東京都)	社有林の利用間伐促進及び木質資源有効利用促進事業	山林の傾斜やタイプの異なる複数の社有林において、それぞれに適する伐採・搬出方法を選択し、間伐の実施と間伐材の有効利用のための実証事業を行う。伐採、搬出、運搬等各作業の作業性及びコストの評価を行い、製紙用原料及び燃料として可能な限り低質材の利用を図るシステムの構築を行う。
6	住友林業フォレストサービス株式会社 (東京都)	端材や枝条等の低コスト集荷システムの開発及び発電用燃料等への利用実証	伐採から造材、搬出、選別、運送、加工利用までを一体的に行うことにより、端材や枝条等の木質バイオマス資源を効率的に収集し、発電用燃料や製紙用チップとして利用する地域モデルを構築する。このため、現場に応じた新たな収集方法を開発すると共に、積込・運搬方法の合理化のための実証を行う。
7	株式会社ファーストエスコ (東京都)	森林からの木質バイオマスの総合リサイクル推進事業	間伐の実施により発生する、残渣を含んだ木質バイオマスを、低コストで収集、運搬、加工し、パーティクルボード原料及び発電用燃料として利用する。このため、高性能林業機械や圧縮減容化機械の導入による低コスト生産、バイオマスの用途選別による効率的利用、チップ工場と利用施設の隣接化による運搬コスト低減の実証を行う。
8	フルハシEPO株式会社 (愛知県)	間伐材の多様な活用と全工程でのコスト評価に関する実証事業	未利用になっている間伐材について、低コスト搬出システムの構築と付加価値の高い利用方法を検討し、採算確保と森林保全という山元とユーザーの双方におけるニーズをつなぐモデル事業を実施する。このため、間伐材の搬出から燃料用チップ、製紙用チップ、パレット用材等の複数用途への活用までを一連の事業として、全工程でのコスト評価を行い、採算の取れるシステム作りを行う。
9	E2リバイブ株式会社 (三重県)	間伐未利用材を有効活用した地域活性化システム実証事業	建設業で培った技術ノウハウを用いて、林地残材の収集、破碎、搬出の低コスト化を図り、ペレット生産を行う。林地残材の搬出については、林地の状況に応じてショートコースターやシングルマターを使い分ける方法を実証する。また、現地におけるチップ化及び積み込み方法に関しても検証する。

番号	申請者	事業名	事業内容
10	エヌ・アンド・イー株式会社(徳島県)	間伐により発生する木質バイオマス資源のMDFへの利用実証事業	徳島県の指導による「徳島スギC材MDF活用協議会」を基盤に、林地残材の活用に取り組む。収集は全木集材を基本とし、定尺材(小径、欠点材)、端材別に異なる輸送方法で工場まで輸送する。集材方法については、新たにロングアームスイングヤードの採用を検証する。また、枝条等については、現地破碎による減容化を行う。
11	協同組合きもつき木材高次加工センター(鹿児島県)	廃熱を利用した乾燥チップ生産実証事業	林地残材や低質間伐材を収集し、これらを燃料用チップとして安定供給する体制を構築する。ペレットに準ずる発熱量を持つ燃料として、競争力を確保するため乾燥チップを生産する。このため、素材生産業、運送業、製材業の3者の連携による最適な集材・出材体制の構築とコスト低減、生産性向上の実証を行う。